

震災復興支援！さよなら原発

3.11 岡崎集会

参加呼びかけアピール

東日本大震災、そして最悪の人災・東京電力福島第一原発事故からまもなく1年です。

津波に襲われ、まるで広島、長崎の原爆の後のような街や農地。液状化でゆがんだ街。東日本大震災の被災者は、家族も、住むところも、くらしも、営業も、働く場も奪われ、今なお行方不明者がいます。そんな中からも、被災者は家族や地域との絆を見出し、懸命に復興活動を続けています。震災復興のための政治の役割は、何よりも生活と生業の再建への支援で、被災者に明日への夢と希望を与えることです。

野田内閣は、昨年12月に東京電力福島第一原発事故の「収束宣言」を行いました。福島県民はもとより私たちにとって、「とんでもない！」の思いです。避難している県民は戻ることができず、放射性物質は放出され、東京電力の賠償責任も果たされていません。福島県は復興計画で、県内10基の原発の廃炉を国と東京電力に求めています。日本に原発は要りません。原発再稼動ではなく、エネルギー政策を転換し、自然エネルギー、再生エネルギーの開発を急ぐことです。

岡崎の地から、東日本大震災被災者の要請に引き続き応えましょう。

私たちの”さよなら原発”の思いを、福島の人々に、政府に電力会社に伝えましょう。

中部電力には浜岡原発の廃炉を求めましょう。

子どもたちの未来のために、声を上げるのは大人の責任です。

全国の人々と呼応して、岡崎でも声を上げ、行動を起こしましょう。



あなたの東日本大震災復興支援の思いをアピールしよう

あなたの“さよなら原発”的いを声にしよう

子どもたちを安心して育てるために、子どもたちを放射能から守ろう

集まろう、3月11日（日）11時 菅生川河川敷

2012年1月9日

震災復興支援！さよなら原発 3.11岡崎集会 呼びかけ人（五十音順）

天野茂樹（弁護士）、荒川和美（弁護士）、伊藤三学（松樹寺住職）、
影山健（愛知教育大学名誉教授）、北川勝弘（人間環境大学非常勤講師）、木俣光悟（年金者組合岡崎支部長）、杉田隆志（原水爆禁止岡崎・
額田協議会事務局長）、中根陽子（新日本婦人の会岡崎支部長）、中村朝美（ルーテル教会牧師）、林浅吉（岡崎民主商工会会長）、船川芳洋
(歯科医師)、吉田登(司法書士)

